はじめに

例年よりも大分早くに梅雨明けが宣言され、暑い日が続いている。春は冷たく凍えそうだった利賀川にも、本格的に川遊びの季節がやってきた。

利賀での川遊びは、自然のダイナミックさを存分に味わえる夏の活動の目玉だ。リバースライダーのような遊びができる場所、飛び込みができる場所、渓流の絶景が味わえる場所など、私自身もまだ体験したことのない良い川遊びスポットがまだまだ隠されているのではと想像に胸がときめく。

川での遊びというのは、言うなれば決められた用紙に絵を描くようなものに似ていると私は思う。一つの場所でも、無数に遊びが存在するからだ。どのように楽しむかは自分次第。考え方や工夫ひとつで、なんでもできる。決まった遊び方があるわけではないのだ。

どうすれば楽しめるか、次はどんなことをやってやろうかと考えて遊ぶこと。この利賀川での遊びは、そんなことを教えてくれる場所であると私は思う。

短い夏ではあるけれど、貴重な時間を無駄にせず、遊び尽くしてほしいと願うばかりだ。

邑上　貴厚

【 活動カレンダー 】

6月

- ２３日　センター入り
- ２５日　畑作業、ゆめ基金週末活動（～２６日）

7月

- ２日　田んぼの草取り、川遊び
- ３日　南砺市散策
- ８日　ホームステイ入り
- １５日　センター入り
- １６日　テント泊キャンプ（～１７日）
- １７日　大掃除
- １８日　個人体験活動日
- ２３日　誕生日会
- ２４日　漁業組合清掃、畑作業、川遊び
- ２５日　帰省

〒939-2516　富山県南砺市利賀村坂上 18　南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

７／２　川遊び

センター横を流れる利賀川へ、今年も川遊びの季節がやってきました。連日 30℃を超える暑い日が続き、留学生たちからは「川遊びまだ？」という声があちこちから聞こえてきていました。

「思ってたよりも冷たくない！」と淀みにいる岩魚を網ですくったり、浮き輪を使って川を流れたりするなどして、思い思いに遊んでいました。今後は、平日の空き時間など、決まった活動日でなくとも、川を楽しんで行けたらと思います。

今年も我々、邑上建設の川作業のシーズンがやってまいりました。今年は、だいぶ水温が高く、寒がりの僕でも作業できる水温になっています。また、今年度はリバースライダーのルートを２コース整備いたしました。新しいスライダーをぜひお楽しみください。**（邑上建設　有生）**

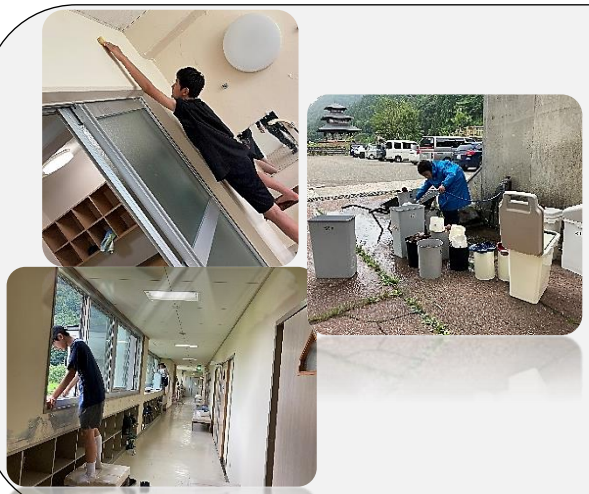
７／３　南砺市散策

自分たちの住んでいる南砺市について知ろうということで、城端と福光の散策を行いました。前日は地図やパンフレットを見ながら、班ごとで散策ルートを決め、お小遣いの使い道にも頭を悩ませます。当日は城端では曳山会館や善徳寺、福光では広徳寺やバットミュージアムなどを回りました。歩いている途中で、「こっちの道に行ってみたい」とルートを変更しながら、街並みを楽しみながら歩く姿が見られ、「棟方志功について詳しくなったよ」「ここでおやつを買ったんだ」など、南砺市の文化や歴史、おいしいものに触れることができました。

７／１６・１７　テント泊キャンプ

今年度初めのデイキャンプからレベルアップ！夕食を自分たちだけで作り、テントに一泊するキャンプを行いました。今回は地元生も３人参加。薪集めやかまど作りも全て自分たちで行いました。調理のときは、雨で火起こしに苦戦したり鍋をひっくり返してしまったりとハプニングもありましたが、協力してカレーライスを完成させました。「やっと食べられる…」「おいしい！」と完食。夜には散歩をしてホタルをみたり、火を囲んで話したりして、のんびりテントに入りました。夜中も雨が降りましたが無事に一夜を越し、１泊２日のキャンプをやりきることができました。

私は今回人生で初めてテント泊をしました。初めてのテント泊で、あまり寝れなかったけど、 途中で具材を全部こぼし、洗って作り直したカレーライスやみんなで焼いたマシュマロがとてもおいしかったです。いろんなことがあったけど、私はマシュマロを焼くのが一番楽しかったです。**（マシュマロ三ツ星料理長　梨織）**



７／１７　大掃除

１学期も終わりに近づいてきたので、自分たちが１学期間使ってきたセンターをきれいにしようと、大掃除を行いました。広いセンターを手分けし、普段時間を割けない窓や床の掃除、ごみ箱やサンダル洗いなどに力を注ぎました。途中「疲れた」「もう掃除嫌だ」と心折れそうな姿があり、また、時間内に終わらず、夜の日常の掃除の時間に持ち越すことになりました。長時間の大掃除となりましたが、終わったときには「頑張ったな」「きれいになったね」と自分たちの頑張りに手応えを感じている様子でした。

６／25・26　ゆめ基金週末活動

活動に参加する南砺市の親子と一緒に、１泊２日の時間を過ごしました。１日目は、魚釣り班とジャムにする木の実を採取する班に分かれ、活動しました。釣った魚は下処理をし、ムニエルやフライに、採った桑の実は煮詰めてジャムにし、クラッカーに挟んで夕食に食べました。その他にも、麻婆豆腐と人参のグラッセも自分たちで作り、「これ美味しいね！」とお互いに褒め合いながら食べていました。２日目は、１日目の魚釣り班と木の実採取班を入れ替えて、午前中活動しました。午後からは自由時間。センター周辺を散歩したり、竹細工や小川に石でダムを作ったり、自分たちのやりたいことを楽しんでいました。

～ 雑草のようにたくましく ～

6/25　整枝・誘引・じゃが芋の土寄せ

中学生は部活動があったため、土寄せや整枝等の作業は小学生で行いました。草を抜きながら、鍬でじゃが芋の株元に土を寄せ、キュウリやカボチャ、トマトなどは丁寧に枝を整えました。良く晴れた中、１時間ほどで作業を終えました。日々の作業では夏野菜の収穫が始まり、ズッキーニやキュウリ、ナス、ピーマン、インゲンなどを食事に出してもらっています。ホームステイ後に育ちすぎた巨大なズッキーニやキュウリを見て、「これ皆に見せたい！」と食堂へ運び込んでいる人もいました。

〈　日常の様子　〉

田んぼの草かきをしました！
ヒルに噛まれる留学生が続出…

なかなか時間がないですが、太鼓の練習も始まりました！

川遊びを楽しむために、たくさんの浮き輪を手分けして、膨らませました！

保護者だより

「え？お子さんお一人で転居ですか？」 区役所の窓口、戸惑う職員。
柚月、小学２年生。身長は 120cm に満たない。

無事、柚月は小学３年生を長野県大町市で迎えた。
山村留学入園のつどい。 小学校入学時の衣装に身を包んだ柚月は、名古屋からの道中、「入学式？おめでとう」と声をかけられた。 小さな柚月としばしの別れ。
山村留学生は 33 人。柚月は最年少。沢山の経験が詰まった有意義な時間。負けず嫌い故、上手くついていけず悔しい思いも経験した。
「1 度帰って、また山村留学する選択もあるよ」 継続か迷った柚月はその意見に納得し、1 年で名古屋に。

地元に帰って３年目。山村留学の思い出話が話題になることが増えて来た。
再び山村留学へ…？ しかし、大町市での山村留学は受け入れの都合で戻ることは叶わなかった。
そんな中、南砺利賀はどうかと助言を頂く。
富山は遠いという思い込みもあったが、車であれば長野よりも近い事がわかる。
「どんなところだろう？」 期待と不安を抱えて、体験留学へ。
息を飲む白銀の世界、人懐こく礼儀正しい山留生、左義長での地元の方との交流、さらに最初の山村留学で担当指導員だった実穂さんがいる安心感。

用意してきた願書を迷うことなく提出。
ご縁を頂き、再び山村留学へ…！

「お子さんお一人で転居ですね」 区役所の窓口、慣れた対応の職員。
30cm 近く身長の伸びた柚月。
体が小さくて出来なかった事が今ならきっと…。

素敵な利賀の地で、笑顔の比率が高い山村留学を過ごして欲しい。

くま爺のつぶやき・・・

カップ麺で皆さんご存じの日清食品の創業者安藤百福さんは、自然体験活動やスポーツの推進を支援するために 1983 年に安藤スポーツ・食文化振興財団を設立し、2002 年から「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」との思いから全国からユニークで創造性に富んだ自然体験活動の企画を公募する「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」を実施しています。私たちは生活に根差した自然と暮らし体験こそが、利便性や贅沢を追求した有り余るモノや情報が溢れた都市化社会で生活する青少年には必要であると考え、多様な体験活動に取り組んでおり、今回この企画コンテストに「源流の山里の暮らしから森と水と人の繋がりを学ぶ」というタイトルの企画を応募しました。
その結果、多数の応募団体の中から実施支援団体の一つに選定されました。上記の取り組みは 4 月中旬から既に始まっていますが、これから 10 月下旬まで山村留学生や利賀村の子どもたちと企画案を具体化していく予定です。村民の皆さまのご支援、ご協力をお願いする次第です。

統括主幹　山本光則